

第10回蒲郡市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和3年5月14日（金）午後3時から午後4時まで		
開催場所	蒲郡市役所3階 303会議室		
出席者	<p>【蒲郡市総合計画審議会 委員】</p> <p>蒲郡市教育委員会 蒲郡市総代連合会 蒲郡市漁業振興協議会 蒲郡市観光協会 蒲郡市農業委員会 蒲郡市農業協同組合 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 蒲郡市社会福祉協議会 がまごおり市民まちづくりセンター 蒲郡市国際交流協会多文化共生部会 ボランティア連絡協議会 蒲郡市文化協会 蒲郡市スポーツ協会 蒲郡市子ども会連絡協議会 蒲郡市 名古屋大学 愛知工科大学</p> <p>（欠席） 蒲郡商工会議所 愛知大学</p> <p>企画部 企画部 企画政策課 企画政策課</p>	<p>教育委員 副会長 会長 常務理事 会長職務代理者 理事 会長 会長 代表 副会長 副会長 副会長 副会長 副市長 教授 准教授</p> <p>部長 次長 課長 課長補佐</p>	<p>渡辺 充江 石川 良一 小林 俊雄 高井 知明 千賀 直樹 大村 純代 三浦 吉尊 鶴飼 秀好 金子 哲三 三浦 嘉子 石川 たづ子 佐野 哲子 吉見 千津子 小林 浩子 大原 義文 高野 雅夫 小林 直美</p> <p>小池 高弘 鄭 智允</p> <p>大森 康弘 牧原 英治 成瀬 貴章 伊藤 次郎</p>
議 題	<p>(1) 総合計画案について</p> <p>(2) その他</p>		
会議資料	<p>資料1 パブリックコメント結果</p> <p>資料2 総合計画案</p>		

会議内容	<p>1 開会 (事務局)</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>みなさん、こんにちは。 最後の審議会になるので、特段問題なければ協議いただいて、市長に答申したい。 この間、非常に熱心にご議論いただいた。かなり最初の案から変わってきているので、その分、市民の感覚に近い総合計画になってきた。 大切なのは、これからこの計画を実行していくことであり、皆様方のご協力が必要になるので、今日はそのスタートの会議になる。よろしくお願ひしたい。</p> <p>3 議事 (1) 総合計画案について</p> <p>(会長) 前回審議会でご意見をいただいたことは私にご一任いただき、事務局と相談して修正を行った。さらに、パブリックコメントでは2名から意見をいただき、それに基づいて少し修正している。 前回のご意見について語句を踏まえて修正しており、パブコメの説明から入る。内容について議論して、問題なければご承認いただきたい。 その後で、これをどう実行していくのか、進行管理についての議論を少し行いたい。</p> <p>(事務局説明) 資料1、資料2)</p> <p>(会長) 今までのところで、ご質問、ご意見は。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業において指標が10年間変わらないというパブリックコメントの7番の意見があった。漁業者ががんばっても海の環境の影響がある。海に栄養がなくなり魚貝類の繁殖が悪くなっており、生物が減っており心配している。生物が育ちやすい水質にしていく必要があるが、漁業者や市の担当ががんばってもなかなか達成できないが、何とかしていきたいと考えている。 <p>(会長) ほかにいかがか。 本文の地域コミュニティ活動の目標も減った数値となっているとい</p>
------	--

うご指摘があったが、市で再検討して変更しないということである。この点は良いか。市でできないことを目標として掲げてもできないことになるという意味がない。

そのほか、いかがか。よろしいか。

では、総合計画については、お手元の通りで確定させていただく。ご承認いただけるか。

(審議会委員全員 承認)

(会長)

では、次の段階は総合計画を実行していく必要がある。総合計画の進行については、市のみではできないという意見も先ほどあり、ご意見をいただきたい。進行管理をどうしていくのかについて文面は簡潔に示されており、具体的にどうしていくのかご意見をいただきたい。

まず事務局から、進行管理について具体的に話ができれば。

(事務局)

策定中ということもあり、具体的なことはないが、P.106 に進行管理について市民の実感を踏まえて、内部、外部の意見も踏まえるということになっており、こうした点は重視したい。

あわせて、文中「市民の実感」をどういった形で把握できるのかについても考えていきたいので、今後議論しながら進めたい。本日、皆さんからご意見をいただき参考にしていきたい。

(会長)

どちらからでもご意見をいただきたい。いかがか。

・P.106 については、確かにこの文言だと曖昧である。外部の意見をという点で評価できるが、パブコメにもあったように、審議会委員でないと分かりにくいところがあり、あと一步足りないと感じる。

P.3 に実施計画についてローリング方式で進めることになっており、ここで内部の見直しをどうするのか、外部の市民の実感と有識者の意見を必ず入れるというような約束をいただくのが大事である。今回の策定にもかなりお金をかけて、意識調査と団体ヒアリング調査が行われたが、それを継続することが必要ではないか。

(事務局)

今の段階では細かい内容検討は進んでいないが、実施の段階には「あと一步」というところを形で見せていきたい。その際には、皆さんのご意見をうかがう場面もあるかもしれないので、よろしくお願ひしたい。

(会長)

今回、総合計画で大きな変更があったのは地域コミュニティ活動と市民活動を分けて章立てをして、市民と協働で進めていくためにそれぞれ強化していくことを打ち出した。

この進め方などについてご意見があれば。

- ・総合計画の文章は細かく書けないことはやむを得ない。市民をパートナーとして何かをやっていく場合には、具体的になるほど意見が出たり、追加すべき新しいことも見えてくる。進めていく段階で優先順位が変わることもあったり、トップ3の優先的なことが時代の変化で変わることがある。

大きな災害で価値観の上位が変わることもある。東日本大震災後には、地域活動で防災を大きく扱うことになった。進行管理の部分で、実際に活動している人との価値観の変化についてすり合わせる機会をつくっていただきたい。

(会長)

コロナもそうであるが、この1、2年で状況が全く変わってしまったことがあり、そのことを何とかしたいということもある。時代が安定しているなら良いが、目まぐるしく変わる時代であり、柔軟に変えていくべきというご意見である。

ほかにいかがか。

福祉総合相談窓口という、いろいろな分野が総合して対応すべきであるというご意見もいただいていたが。

- ・福祉総合相談窓口は、地域福祉計画の策定を昨年から進めており、この6月ぐらいに計画確定すれば進んでいく。地域福祉計画の中では、年度ごとに進め方を具体的に示すことになる。

進行管理は総合計画の場合は、非常に難しいと思う。総合計画は漠然とした文言である。細かい点については関係計画があるので、そこで順次進めながら、チェックしていくことになると思う。

(会長)

では個別計画でしっかり入れていただくことでお願いしたい。

審議会の中で議論が盛り上がったのは多文化共生であった。全てのご意見を反映したわけではないが重点を置いた施策となった。

- ・P.96、97に多文化共生が示されており、多文化共生の意識啓発のための語学講座や多文化共生講座を開催することを示されている。日本語教室は現在3つあり、その3つについて協働まちづくり課が動いている。ほかにもボランティアや指導者に加えて、市内で関心がある方も加わっていただき、講座を行う動きが昨年1年間でかなり進んだ。全市的な中級クラスのレベルの講座も始まり、県に委託して近隣の人もサポーターとして参加する初めての日本語講座もできて大勢が参加した。

多文化共生部会で外国人と関わり合いがある人同士が集まり、困っていることの紹介、相談、分からないことを話し合い機会も持つことができた。公民館が閉鎖されて日本語教室が開けない時でも、若者サポートセンターや勤労福祉会館が協力して、場所をお互いに提供するこ

とができたのはとてもありがたい。

外国から日本に来たばかりの人のために就学年齢の子どもは3か月ぐらい日本語について指導することとなった。ただし、外国人には活動について知らない人も多く、日本人も知らないのでもっと伝えてかかわってもらわなければならない。総合計画の内容は進んだものになった。

(会長)

日本語教室については、ぜひ進めていただきたい。

住民の自治組織のあり方で総代の負担、担い手の減少という意見があったが、その点も書き込むことができた。P. 90に住民自治組織の記述がある。

・次のやり手がなく押し付け合いのなっており、これをどうするのかというのが問題になっている。

一つには役員へのお金が少ないことであるが、それは別にして、いろいろと充て職が多いということがある。会長だから行うというよりも、それぞれの分野で合った人を出していくのが良い。

日本は何となく肩書で、この人なら皆の合意が取れるということで一番上に据える感覚があり、変えていく方が良いというのが実感である。

(会長)

計画に記述し切れないことがあったと思うので、具体的な検討を市や皆さんもご検討いただきたい。

・総合計画を進める時に市民協働や地域のコミュニティを分ける展開であるが、第五次総合計画は人口減少社会についての対応がいよいよ始まる。その中で大事になってくるのは共生社会をどうつくっていくのか、助け合いや分野を超えた連携が重要になる。このため、市民協働を基本施策としていただいた。

総合計画全体で共生、他分野との連携を考えていくべきである。個別になると見るところもあるが、ほかの部分が分からなくなり、対応が部分的になってしまう分、そのしわ寄せが地域コミュニティに来てしまう。そのときに、地域コミュニティに担い手がいなくては対応することができない。いろんな分野の人々が他分野を理解して進めていくことが重要である。枠組みを変えるときに、どことどこが組むのかについて何らか作っていくべきである。

(会長)

パブリックコメントの中に、審議会委員に若い人が少ないという意見があった。今後見直しをする際には審議会が開かれることになると思うが、そのときにはぜひ公募委員を入れていただきたい。そのためには条例改正が必要になる。市民の生の声、充て職ではなく意見を言いたい方に出していただいて各団体と議論することが大事である。ぜひ市へお願い

したい。

進行管理については、個別計画がある中、総合計画の進行管理が難しいという話もあった。総合的にまちづくりをモニターしていく機能が大事であり、まちの第一線でいろいろ活動している人の生の意見、現場で何が起こっているのかという感覚を市民と市が共有する場が年に一度でもあると良い。今回の審議会はそういった場になった。皆様から現場の意見を多くいただき、共有しながら議論ができた。これが、まちづくりに結び付いていくものと思う。こうした場が年に1回でもあり、新しい課題を議論していくだけでも進行管理として意義がある。どんどん変わっていくまちの現状を共有する場であっても良い。

総合計画審議会はまちを全体的に見ていただく場となった。昨年12月のフォーラムについても、市長に直接話ができる場として非常に良かった。インターネットでの参加も可能とし、好評をいただいている。市長と直接市民がコミュニケーションする機会も大事である。課題、テーマごとに市長と市民が直接対話できる場は、課題を共有し、知恵を出し合う場となるので、是非ご検討いただければと思う。ほかにご意見は。

- ・地域コミュニティ活動にある参加延べ人数という指標について前回意見を述べた。実感として女性は意識が随分変わってきた。今までは、「地域の総代、常会長などは男性がなり、女性が支える」という感覚であったが、よその市でも女性が総代などになっているところは活力あがる。新しいこともやっている。

自分が回りの人に声をかけただけで、驚くぐらいみんながいいねと言ってくれる。私自身がやっている活動でも声を出すとつながっていくという実感を持っている。地域のコミュニティ活動でも、地域福祉計画でも画一的な感じがあるので、幅広くいろいろな人の意見を盛り込んでいけると良い。

(会長)

女性がもっと活躍できることが蒲郡市の未来にとって大切である。ほかにかがが。

- ・よくできた総合計画であるが、最後こういうふうにしたいというのが見にくい。3年間ずつ順番に進めていくということであるが、それは見れる形になっているのか。

(事務局)

3年間の計画は実施計画であるが、ホームページ等で進捗に関しては公表していくことになる。

(会長)

ほかにかがが。

では、最後に副市長に一言コメントをいただきたい。

(副市長)

委員の皆さんには昨年の7月27日から議論をいただき、本日市長に答申いただけるということで感謝申し上げたい。

総合計画は重要な計画であり、今後、6月議会において議案として提出し、市議会の議決を得ていく。私どもは遂行する立場であり、皆様のご尽力に応じていくことが大切だと感じている。今回の総合計画は、人口減少という現実を見据えていく初めての総合計画となる。いろいろなことを解決していくために、組織として縦割りを排除して連携という考え方を持って進めていかなければならない。

また、今回の総合計画においては、指標をきちんと示しているのが大きな特徴である。今までは目標を漠然と示していたが、今回は指標の達成を目指して進める。ただしパブリックコメントにあったように指標を達成すれば計画が進むものばかりではないと認識している。

進行管理については、第四次総合計画では実施計画のローリングで進めてきたが、中間地点で見直しをすることができなかった。時代は動いており、今回のコロナ禍でも1年前にはマスクをして会議をすることは考えられなかった。時代の変化とともにローリングや見直しをきちんとしながら進める必要があり、皆さんとともに遂行していくよう考えていきたい。

まずは6月議会を経て、そこからスタートしていくことになる。皆さんのご尽力に感謝申し上げます。

(会長)

以上、総合計画審議会を終わる。

いたらない司会であったが、長期間にわたりご協力いただき感謝申し上げます。

4 閉会

(事務局)

これもちまして、閉会します。ありがとうございました。